

あいちICTアクションプラン2015 年次レポート（2013年度版）

2013年8月



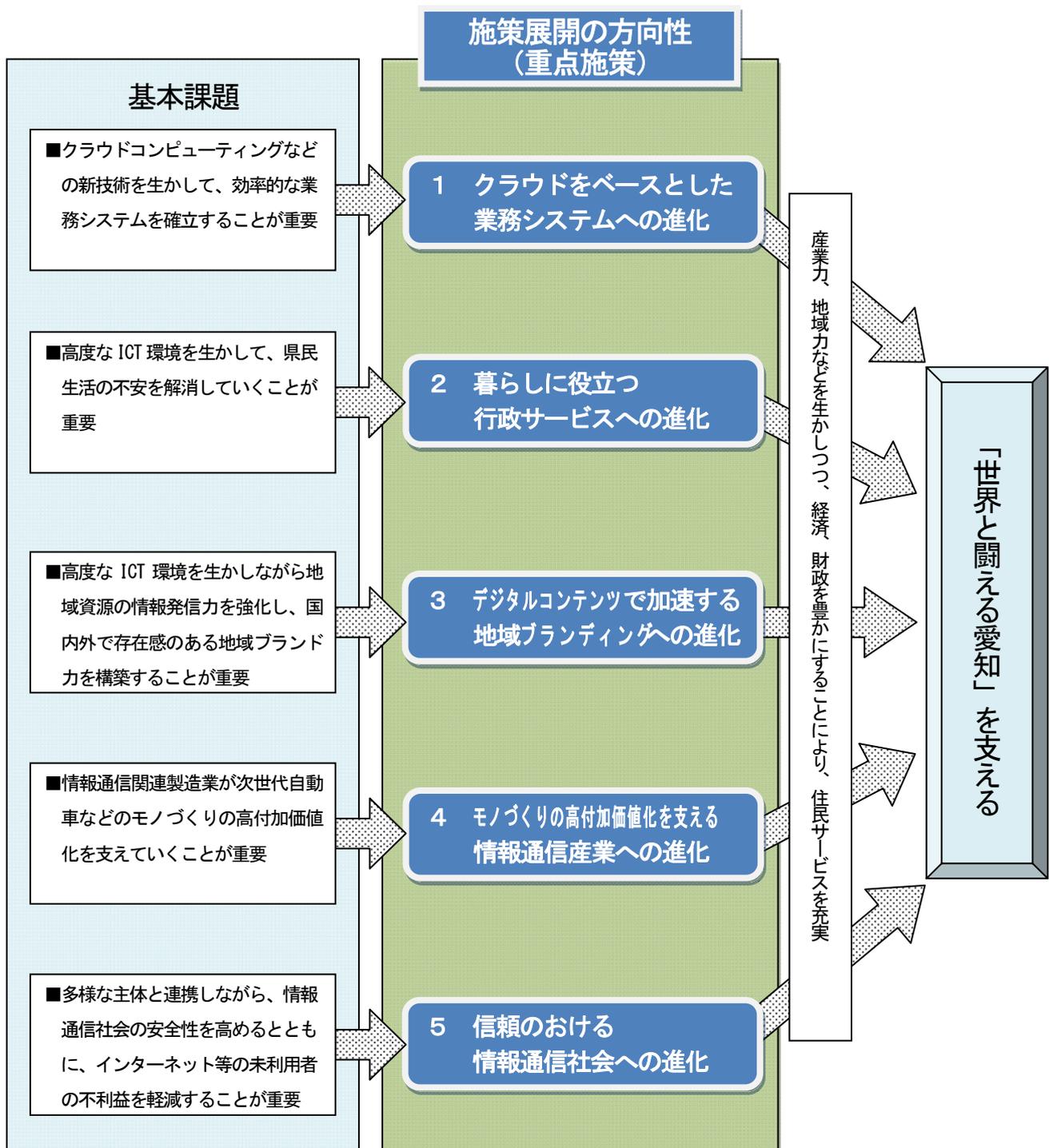
1	年次レポートの趣旨	1
2	24年度の主な実施状況	2
3	施策ごとの進行状況と主な計画	17
4	まとめ	24
	(参考) 取組を紹介したWebサイトの一覧	26

1 年次レポートの趣旨

愛知県では平成23年12月に策定した「あいちICTアクションプラン2015」において、地域や県庁の特性と昨今の外部環境の変化を分析した基本課題を踏まえ、情報通信技術（ICT）の分野における5つの施策展開の方向性（重点施策）を下図のとおり設定しました。

年次レポートでは、計画の進行管理のために、各重点施策に対する主な取組を報告するとともに、今後の計画や計画を進める上での課題を確認していきます。

本紙は2012年度版に続く2回目の年次レポートになります。



2 24年度の主な実施状況

「あいちICTアクションプラン2015」で掲げた重点施策について、平成24年度（2012年度）に実施した主な取組の内容を報告します。

重点施策1 クラウドをベースとした業務システムへの進化

アクションプランの施策項目

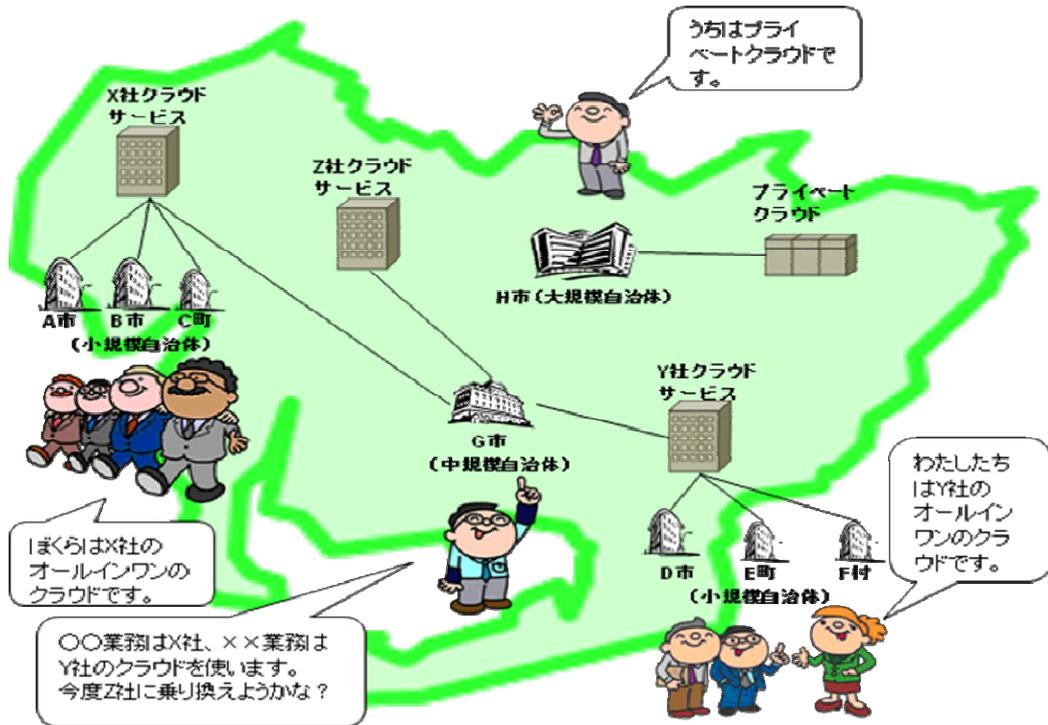
項目	解決すべき課題及び施策の展開
1-1 自治体クラウドの推進	・自治体間の業務の標準化 ・災害時に強い業務システムの構築 等
1-2 業務システム基盤の再構築	・高コストな汎用コンピュータからの移行 ・サーバ統合による運用経費の低減 等
1-3 業務システムの開発・改修 24年度ポイント	・新公会計制度の導入などによるシステムの開発・改修の計画的な実施 等
1-4 携帯情報端末を活用した業務改善	・新たな携帯情報端末の活用の検討
1-5 業務システム調達プロセスの改善	・業務システムの開発・改修にあたって、透明性、公平性、競争性を確保した調達の実施
1-6 情報通信基盤の強化	・ネットワークに接続されていない単体パソコンのネットワーク化 ・増大する情報量に対する情報通信基盤の迅速な見直し

【1-1自治体クラウドの推進】

目標：クラウドコンピューティングにより効率的で災害に強い業務システムに転換します。

- 24年度は、従来の自治体クラウド等研究会から発展させた「あいち自治体クラウド事業部会」を立ち上げ、その中の共同評価グループによるクラウド・サービスの選定作業、調整グループによるクラウドへの移行に向けた調整作業などのグループ活動について専門的知識を有する事業者の支援を受けて作業を進めました。併せて、グループ活動を円滑に行うために必要な文書（RFI（情報提供依頼書）、RFP（提案依頼書）等）の雛形を作成しました。

24年度ポイント：24年度に新たに実施した取組のうち、注目施策を示しています。



【1-2業務システム基盤の再構築】

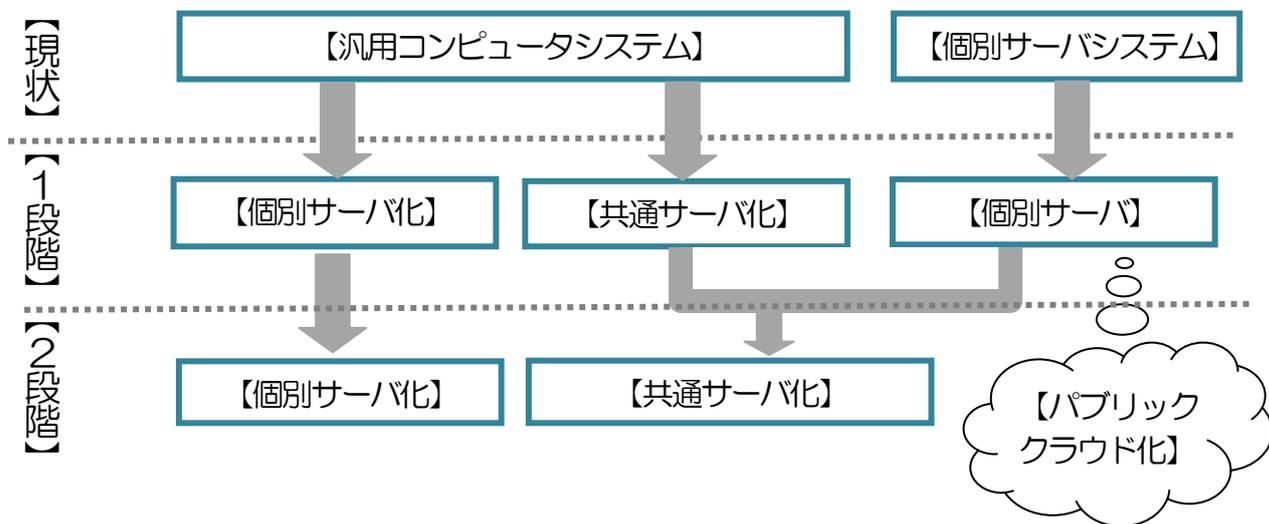
目標：汎用コンピュータからサーバシステムへの移行により、経費削減や安定的運用を図ります。

○ 汎用コンピュータからの移行

現在、人事、税、県営住宅及び福祉手当関連の汎用コンピュータ上で稼働している情報システム等をIT経費の低減、情報システムの安定的な稼働及び効率化といった目的のために、共通サーバ（庁内クラウド）への移行を進めています。

24年度は汎用コンピュータ廃止に向け、各システムは下図の1段階の移行に向けて詳細設計及び開発を行いました。

業務システム基盤の再構築と段階的なシステム統合イメージ（簡略版）



【1-3業務システムの開発・改修】

目標：行政を取り巻く環境変化を見据えながら、業務システムの開発・改修を図ります。

- 業務システムの新公会計制度への対応 **24年度ポイント**
24年度は複式簿記・発生主義会計を採り入れた**新公会計制度**に対応するため、財務システム、予算編成支援システム、公有財産管理システム、建設行政情報システム及び建設資産管理システムの開発、改修及び試行を行いました。

【1-5業務システム調達プロセスの改善】

目標：業務システムの調達プロセスを統制し、経費削減を図ります。

- 情報システム調達の適正化
情報システム適正化事業の支援対象となる10のシステムを選定し、ITの専門的知識を持つコンサルタントから支援を受け、「①調達予定価格適正化」と「②調達仕様書作成」を行いました。
①の調達予定価格適正化支援作業により、各部局の当初想定価格より23.2%抑制することができました。また、②の調達仕様書作成支援作業で、入札における透明性、公平性、競争性を確保しました。
この他、各部局の業務システム担当職員に対し、情報システム調達に関する知識の底上げを目的として、「情報システム適正調達研修」を24年6月に実施し、35名が参加しました。

【1-6情報通信基盤の強化】

目標：情報量に対応した情報通信基盤を整備し、業務活動や県民サービスへの支障を防ぎます。

- 県警パソコンのオンライン化 **完了**
オフラインで運用している警察本部と警察署（交番及び駐在所を含む）の捜査活動支援用パソコンのネットワーク化が完了し、組織的な情報コミュニケーション機能の強化を図りました。

完了：24年度に完了した施策を示しています。

重点施策 2 暮らしに役立つ行政サービスへの進化

アクションプランの施策項目

項目	解決すべき課題及び施策の展開
2-1 楽しさを視点に置いた「ネットあいち」のリニューアル 24年度ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・トップページの掲載項目を、利用しやすい項目に改善 ・複数の広報媒体の効果的な連携 等
2-2 ネットコンテンツの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・県民向けコンテンツの周知や使いやすさ向上 ・新たな情報提供、情報鮮度の維持への取組 等
2-3 安全情報伝達体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難勧告、被災者の安否情報などの迅速・確実な伝達 ・防犯と安全に関する情報についても迅速・確実な対応の必要性 等
2-4 ICTを生かした教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが情報を適切かつ効果的に活用できる能力の向上 ・分かりやすい授業を実現するための方法のひとつとしてICTの効果的な活用
2-5 地域に応じた医療福祉体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・在宅ケアの推進体制の確立や、画像伝送、生体情報伝送など遠隔医療システムの普及・電子カルテの導入 等

【2-1 楽しさを視点に置いた「ネットあいち」(http://www.pref.aichi.jp/) のリニューアル】

目標：「ネットあいち」をリニューアルし、利用者の拡大を図ります。

○ イベント情報等を発信するワクワクあいちの充実 **24年度ポイント**

(http://www.pref.aichi.jp/joho/wakuwaku/)

(1) 23年度に開設した「ワクワクあいち」はコンテンツが増えてきたため、分かりやすく項目別に検索できるようレイアウトを見直しました。



- (2) 知事の名刺で使用されている愛知の農林水産物・特産品のPR用画像を一新しダウンロードできるようにしました。
- (3) スマートフォンなどで利用できるAR（拡張現実）技術を使ったアプリを紹介する特集Webページを新設しました。

【2-2 ネットコンテンツの充実】

目標：ネットコンテンツを充実させ、県民の暮らしを便利にします。

- 「奥三河の花祭」を解説するスマートフォン向けのガイドサイトの開発・運用
 - 国の重要無形民俗文化財に指定されている花祭の流れや舞の種類などを解説するため「奥三河の花祭」のWebページ (<http://hanamatsuri.jp/>) を新設し、併せてスマートフォン向けのガイドサイト (<http://hanamatsuri.jp/smapho/index.html>) を制作しました。
 - また、スマートフォン向けのガイドサイトへのアクセスを容易にするため、「奥三河の花祭」のWebページ及びパンフレットにQRコードを付与しました。



- あいちの空港を紹介する動画の作成及び配信
 - 国際拠点空港である中部国際空港及びコンピューター航空、ビジネス機等の小型機の拠点空港である県営名古屋空港の2つの空港の紹介と利用促進を図るため、空港のイメージアップにつながるコンテンツを制作しました。



動画「あいちの空港」

【2-3 安全情報伝達体制の強化】

目標：安全情報を迅速かつ確実に伝達し、安心安全な暮らしを支えます。

- 洪水や土砂災害に関する防災情報の携帯電話への配信開始
従来の地震及び津波に関する防災情報に加え、新たに洪水や土砂災害に関する情報を配信し、豪雨時における避難の判断材料などにご活用していただける携帯電話電子メールサービス（NTTドコモ、au 及びソフトバンクに対応）を開始しました。（24年9月から）

（配信される情報及び地域）

- 指定河川洪水警報：境川・逢妻川流域の5つの市町（刈谷市、大府市、知立市、豊明市、東浦町）
- 土砂災害警戒情報：三河山間地域の5つの市町村（豊田市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村）

【2-4 ICTを生かした教育の充実】

目標：ICTを活用し、教育の質の向上を図ります。

- 校務支援システムの導入
24年度はグループウェアや成績処理、調査書・生徒指導要録の作成をシステム化した校務支援システムを各県立学校に導入しました。

【2-5 地域に応じた医療福祉体制の構築】

目標：ICTを活用し、安心できる医療福祉体制をつくります。

- 母体・胎児、新生児の搬送における携帯端末を活用した受入病院検索など周産期医療情報ネットワークの充実
県内の地域の周産期医療施設等と周産期母子医療センターとの連携強化を図るための周産期医療情報システムを適切に運用するよう周知を図った。

- 電子カルテの普及促進
医療機関からの電子カルテの導入に関する相談について助言を行いました。

重点施策3 デジタルコンテンツで加速する地域ブランディングへの進化

アクションプランの施策項目

項目	解決すべき課題及び施策の展開
3-1「PLAY!AICHI プロジェクト」の推進	・日本、さらには世界の中で存在感のある地域ブランドを構築していくために、本県固有の観光資源・文化芸術・特産品などの情報発信が必要
3-2 ソーシャルメディアの活用 24年度ポイント	・地域資源の発掘、磨き上げ、情報発信を一体的に行うことが必要 ・ソーシャルメディアの特性に配慮しながら、ソーシャルメディアの持つ力を情報発信や地域づくりに生かしていくことが必要
3-3 訴求力の高い観光コンテンツの充実	・スマートフォン向け観光アプリやAR技術を活用した情報発信の拡大 ・国内に限らず、東アジアなど海外に対する情報発信の強化
3-4 親しみやすい文化芸術コンテンツの充実	・文化芸術情報の積極的な情報発信
3-5 魅力が際立つ特産品コンテンツの充実	・他の特産品との差別化を図るため、特産品の良さ（価値）を消費者に分かりやすく伝えることが必要
3-6 企業等との連携による情報発信力の強化	・企業やNPOとの連携はまだ限定的で、拡大が必要

【3-1「PLAY!AICHI プロジェクト」の推進】

目標：観光・文化芸術・特産品の動画配信を促進し、地域振興や地域ブランド力の強化につなげます。

○ PLAY!AICHI 特派員

大須の地元アイドルユニットの「OS☆U」を愛知県の“住みます芸人”サムタイムズに続く2組目のPLAY!AICHI 特派員に任命しました。

これらの方々の高い情報発信力を生かして県内で行われたイベントなどに出演していただき、地域活性化の取組を行いました。



動画「地域で頑張る若者たちの新春メッセージ」
サムタイムズ・知事・OS☆U

(1) サムタイムズの活動状況

- ・大同大学と連携して制作した「愛知の“こだわり特産品” CM プロジェクト」で地元の特産品などを紹介
- ・「あいちの山里で暮らそう 80日間チャレンジ」のチャレンジスタッフの応援
- ・動画「地域で頑張る若者たちの新春メッセージ」で応援メッセージを贈る など

(2) OS☆Uの活動状況

- ・「OS☆Uと一緒に1日まるごと伊勢湾フェリー」の伊良湖一鳥羽間の一日船長
- ・動画「地域で頑張る若者たちの新春メッセージ」で応援メッセージを贈る
- ・愛・地球博記念公園で開催された愛知ポップカルチャーフェスタ（ぽぷかる2）で『愛知ぽぷかる聖地化計画』に協力 など

【3-2 ソーシャルメディアの活用】

目標：ソーシャルメディアを活用し、観光・文化芸術・特産品の魅力をきめ細かく伝えます。

- フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアは、即時性のある有効な情報発信手段であり、各部局での活用も始まっています。

一方で、利用者自身がその特性やリスクを十分理解していなければ、想定しない影響を及ぼす場合もあるため、愛知県職員がソーシャルメディアを利用する際の基本的な考え方や留意すべき事項等をまとめ、有効に活用できることを目的として「愛知県ソーシャルメディア利用ガイドライン」を策定しました。（25年3月）

- あいちの山里で暮らそう80日間チャレンジ **24年度ポイント**

「あいちの山里で暮らそう 80日間チャレンジ」の5人のチャレンジスタッフが、24年8月末から12月末までの間、あいちの山里で生活をしながら、日々の暮らしでの発見や感動など、山里の暮らしの魅力や様々な地域資源をフェイスブックやYouTube等で広く全国に発信することで、三河の山里の観光PRや交流・移住の促進を図りました。

チャレンジスタッフの活動期間中、特設Webページは63,554件の閲覧をいただきました。また、情報発信の主なツールとして活用したフェイスブックには4,155件の記事を投稿し、12月26日までに合計で3,069名の方に「いいね！」をいただきました。

また、発掘した地域の魅力をまとめ、制作したインターネット動画『ルーガ・リーモ通信』を、「ワクワクあいち 動画ギャラリー 感☆動！あいち」に掲載しました。



特設Webページ (<http://aichi80days.jp/>)

※現在は「ルーガ・リーモ通信」(<http://rugarimo.com/>)で紹介しています。

【3-3訴求力の高い観光コンテンツの充実】

目標：観光情報の訴求力を高め、国内外からの誘客を増やします。

- 外国人留学生が本県のモノづくりの現場や大学、生活環境を取材して、本県の様々な魅力を国内外に発信する動画 10 本を制作し、配信しました。(25年1月)
各動画は、英語又は英字幕で制作されており、ネットあいちの英語ページから視聴することができます。(http://www.pref.aichi.jp/global/en/other/videos.html)
- リニモ（東部丘陵線）とその沿線の活性化を目的に、リニモの各駅でスマートフォンからARアプリを使ってOS☆Uのメンバーと仮想的に写真が撮れるAR「リニモ de OS☆U ショット」を開設しました。(24年11月から25年3月末まで)



AR「リニモ de OS☆U ショット」
(はなみずき通駅・秋ヶ池公園駅)

- 観光案内アプリ「ほの国東三河 AR王国」の制作

(http://www.higashimikawa.jp/ar_special/)

東三河への継続した来訪や周遊を促すことを目的に、AR技術を活用した観光スマートフォンアプリ「ほの国東三河 AR王国」を制作しました。

観光スポットや観光コースの案内を行う「ほの国東三河観光案内」の他、花の素晴らしさを伝える「花男子」とのコラボコンテンツ「AR花男子」やご当地キャラクターが飛び出す「ほの国テーマパーク」など東三河の様々な観光地で楽しめる機能を付加しました。



ほの国東三河 AR王国
トップページイメージ



AR花男子



ほの国テーマパーク

【3-5魅力が際立つ特産品コンテンツの充実】

目標：特産品の魅力を分かりやすく紹介し、人気を高めます。

○ アマゾンジャパンで愛知県フェアの実施

(<http://www.amazon.co.jp/b?ie=UTF8&node=2261313051>)

アマゾンジャパン内の日本各地の特産品を販売するショッピングサイト「Nipponストア」で、本県産の食品や農産物、名古屋おもてなし武将隊のグッズなどをPR・販売する「愛知県フェア」のWebページを開設しました。

○ 「愛知県農林水産部 Web サイト」(<http://www.pref.aichi.jp/nourin/>) の更新

農林水産部の Web サイトについては、県民に対する情報発信力の強化、新技術への対応を図るため、24年度に部内に設けたワーキンググループ等で検討を重ね、更新を行いました。併せて、部内各課のWebページについても、見やすさの向上等のためイメージの統一化等の更新を行いました。(25年3月)

- 一般向けコンテンツへ誘導するバナーの一元配置や調べたい項目からの各課HPへのリンクによる誘導など、県民・消費者向けに見やすい構成としました。
- 農林水産関係情報を紹介するネットあいち上の情報発信サイト(「ワクワクあいち」、「インターネット情報局」)のバナーによりリンクしました。
- その他、写真・イラストの有効活用や部の重点的なPR項目を掲載するコーナーを設けるなどの情報発信の強化を図りました。



アマゾンジャパン
愛知県フェア



愛知県農林水産部 Web サイト

【3-6企業等との連携による情報発信力の強化】

目標：ソーシャルメディアを活用し、観光・文化芸術・特産品の魅力をきめ細かく伝えます。

- 「ロココロあいち」連携モデル事業によるクロスメディア及びメディアミックスの取組及び配信 (<http://lococoro-hotfurusato.com/>)

新しい公共支援事業「ロココロあいち連携モデル事業」において、地域に根ざした活動を行っているNPO及び市民グループの活動状況をWebサイト、マスコミ及び広報誌等で情報発信する取組を行い、Webサイト「ロココロあいち」を開設しました。

このWebサイトは、中部日本放送株式会社の公式サイトに組み込まれている地域情報ポータルサイト「ロココロほっとふるさと」を核としながら、マスメディアとソーシャルメディアを連携させることで、各団体のプロモーション活動を効果的に実現するものです。

各団体がブログに書いた内容を、フェイスブック及びツイッターに連動させ情報発信を行いながら、これらの情報がテレビ番組等から紹介されることも期待されます。



ロココロあいち
トップページ

重点施策4 モノづくりの高付加価値化を支える情報通信産業への進化

アクションプランの施策項目

項目	解決すべき課題及び施策の展開
4-1 研究開発の促進	・既存産業の高度化・新たな産業の創出を図り、モノづくり拠点として持続的に発展するために、情報通信技術、高度部材、加工技術など基盤技術をさらに高めていくことが必要
4-2 スマートモビリティ社会の創造	・ITS世界会議や県内における実証実験の成果などを生かしたITSの普及・定着
4-3 情報通信産業等の誘致・育成	・情報通信技術をモノづくり産業に繋げることができる人材を地域全体で計画的に育成することや情報通信産業等の企業誘致が必要
4-4 デジタルコンテンツ産業の育成 24年度ポイント	・地元企業と協力し、スマートフォン用コンテンツなどの制作により開発ノウハウの蓄積を促進

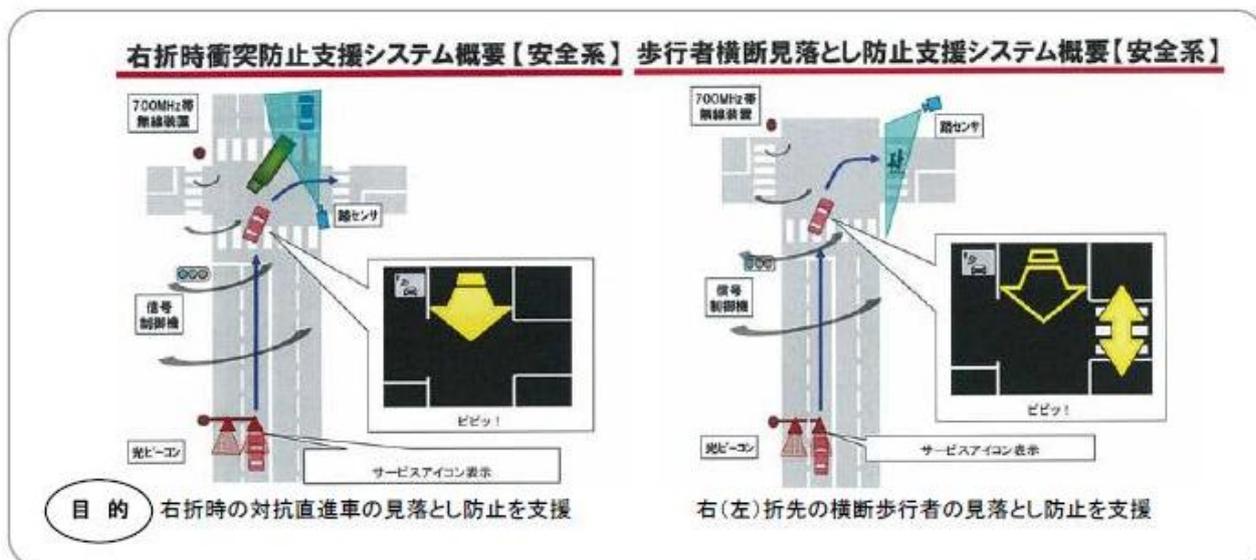
【4-2 スマートモビリティ社会の創造】

目標：ITSなどの新技術を活用しながら、世界最先端のスマートモビリティ社会をつくります。

- 24年度は高度情報通信技術を活用した新交通管理システムの調査研究を行っている（一社）UTMS協会が実施する豊田市での安全運転支援システム(DSSS) 実証実験の支援を行いました。

その他、県内で運用されている各種の交通管理システムについては、その効果を踏まえながら、運用拡大を検討していきます。

DSSS = 安全運転支援システム
(Driving Safety Support Systems)



安全運転支援システム(DSSS)

【4-3 情報通信産業等の誘致・育成】

目標：情報通信産業を含む次世代成長産業の誘致・育成を図ります。

- ビジネスマッチングの開催
24年9月19日及び25年2月22日に有望ビジネスマッチング交流会「ビジネスプラン発表会」を愛知県産業労働センター（ウインクあいち）で開催しました。
交流会では、情報通信分野を含む起業家や新分野進出企業等計18社がビジネスプランを発表し、これらの企業に対する融資、投資、生産、販売等の事業提携を希望するビジネスパートナーと出会うきっかけとなりました。
- 24年度から創設された、21世紀高度先端産業立地補助金及び新あいち創造産業立地補助金を運用しています。
24年度は以下の情報通信分野に該当する投資を補助対象事業として採択しました。
補助対象企業：三菱電機株
投資概要：高速・大容量シーケンサ（ファクトリー・オートメーション機器のプログラム制御）及び駆動制御

【4-4 デジタルコンテンツ産業の育成】

目標：デジタルコンテンツ産業に着目し、積極的な取組を開始します。

- AR未来科学技術体感ルート **24年度ポイント**
リニモ沿線の科学技術関連10施設の概要や取組などについてAR技術や動画を活用して分かりやすく紹介するスマートフォン向けコンテンツを制作し、配信を行いました。



AR 未来科学技術体感ルートの画面例

重点施策5 信頼のおける情報通信社会への進化

アクションプランの施策項目

項目	解決すべき課題及び施策の展開
5-1 情報社会の安全性・信頼性の確保 24年度ポイント	<ul style="list-style-type: none">インターネット空間におけるマナーの向上やメディアリテラシーの強化インターネット利用者の情報セキュリティに対する意識向上不当請求・架空請求などの被害防止のための啓発の強化
5-2 情報セキュリティの徹底	<ul style="list-style-type: none">県が保有する個人情報など重要な情報資産、情報セキュリティの徹底が必要
5-3 アクセシビリティの確保	<ul style="list-style-type: none">インターネット未利用者の不利益拡大の防止日本語がわからない外国人にも配慮したWebサイト作りが必要
5-4 地理的情報格差の解消	<ul style="list-style-type: none">三河山間地域を中心とした携帯電話の不感地帯解消

【5-1 情報社会の安全性・信頼性の確保】

目標：ネット犯罪の防止や情報モラルの向上を図り、安心できる情報社会にします。

- 消費生活情報あいち暮らしWEB (<http://www.pref.aichi.jp/kenmin/shohiseikatsu/>)の充実強化 **24年度ポイント**

24年12月に施行された「消費者教育推進法」を踏まえ、県民の皆様が消費者学習の一助として広く利用していただけるよう、既設の「消費生活情報」Webサイトを抜本的に見直し、「消費生活情報あいち暮らしWEB」として新たに開設しました。(25年3月1日)

リニューアルしたサイトでは、悪質商法の被害に遭わないためのレッスン動画や事例マンガ、トラブル心理チェックなどの教育コンテンツの充実に加え、フェイスブックページの開設やツイッター機能の導入、スマートフォン専用ページへの対応など、情報発信機能の強化を図りました。

アクセス件数をリニューアルの前後で比較すると、一日当たり600件から1,300件に倍増しています。

また、消費生活情報紙「あいち暮らしっく」発行による情報提供や県民生活プラザでの消費生活相談に引き続き取り組んでいきます。



消費生活情報あいち暮らしWEB
トップページイメージ



レッスン動画

- サイバー犯罪防止講話の開催

県内の小・中学校や高等学校、県民や企業などに対し、関係機関と連携して「サイバー犯罪防止講話」を開催し、インターネット上の掲示板などに誹謗中傷となる書き込みをしないといった情報モラルの徹底と情報セキュリティ向上のため広報啓発活動を実施しました。

(平成24年度サイバー犯罪防止講話実施結果)

・小学校	464回
・小学校(ボランティア)	15回
・中学校	362回
・高等学校	116回
・大学、専門学校	6回
・教師、PTA	50回
・一般	915回
合計	1,928回

県警Webページ ～サイバー犯罪防止講話のご紹介～

<http://www.pref.aichi.jp/police/safety/high-tech/kouwa.html>

【5-4 地理的情報格差の解消】

目標：三河山間地域において、携帯電話を使いやすくします。

- 豊根村内において、1地区1局の携帯電話用鉄塔を整備しました。
(三河山間地域情報格差対策費補助金 3,996千円)



3 施策ごとの進行状況と主な計画

重点施策1 クラウドをベースとした業務システムへの進化

(評価指標) 自治体クラウドを構築している市町村数

(目標) 43市町村(平成27年度末時点)

(24年度末の状況)

- ・ クラウド導入のため市町村をグループ化
- ・ 7市町がクラウド化実施(平成24年度末)

(施策の趣旨及び課題)

本施策は、クラウドコンピューティングなどの新技術を生かすことによって、効率的で災害に強い業務システムを確立するために展開しています。

市町村のシステムのクラウド化については、既存のシステムからの円滑な移行や業務の負担を軽減するために、県がアドバイザーとなり、市町村同士での共同での検討や先行団体の実施状況の情報を共有していくことが重要です。

県庁内の業務システムについては、庁内クラウドの構築を進めるとともに、各システムの見直しを行うことで、システムの適正化及びIT経費の低減化を進めていくことが必要となっています。

(主な計画)

1-1 自治体クラウドの推進

- ・ 先行自治体のクラウド導入(24年度～)
- ・ クラウド導入のための市町村グループ活動を支援(25年度)
- ・ 各自治体の更新時期に合わせて順次導入(26年度～)

1-2 業務システム基盤の再構築

- ・ 大規模システムの個別サーバ化に向けてのシステム及びデータ移行、稼働準備(25年度)
- ・ 個別サーバを共通サーバ化するための移行調整、仕様等検討(24～25年度)
- ・ 共通サーバへの移行開始(26年度～)

1-3 業務システムの開発・改修

- ・ 税務システムの試験・稼働開始(25年度)
- ・ 予算編成支援システムの二次改修及び稼働開始(25年度)、公有財産管理システムの稼働(25年度～)
- ・ 職員採用試験システムの運用(25年度～)
- ・ 物品調達におけるオープンカウンタの対象範囲の拡大(23年度～)

1-4 携帯情報端末を活用した業務改善

- ・ 知の拠点あいちの施設案内用の携帯情報端末の運用(24年度～)
- ・ 事業説明会・用地交渉現場における地権者説明に動画活用(24年度～)
- ・ タブレット端末の行政事務への利用検証(25年度～)

1-5 業務システム調達プロセスの改善

- ・ 全庁システム調査(毎年度)
- ・ 適正化事業としてシステム開発・改修について支援(毎年度)

1-6 情報通信基盤の強化

- ・ 地方機関の回線変更（23年度～）
- ・ 光回線への切替が可能となった県立学校について光回線化（23年度～）
- ・ 教員・職員への一人一台パソコンの全員配備に向けた取組（23年度～）

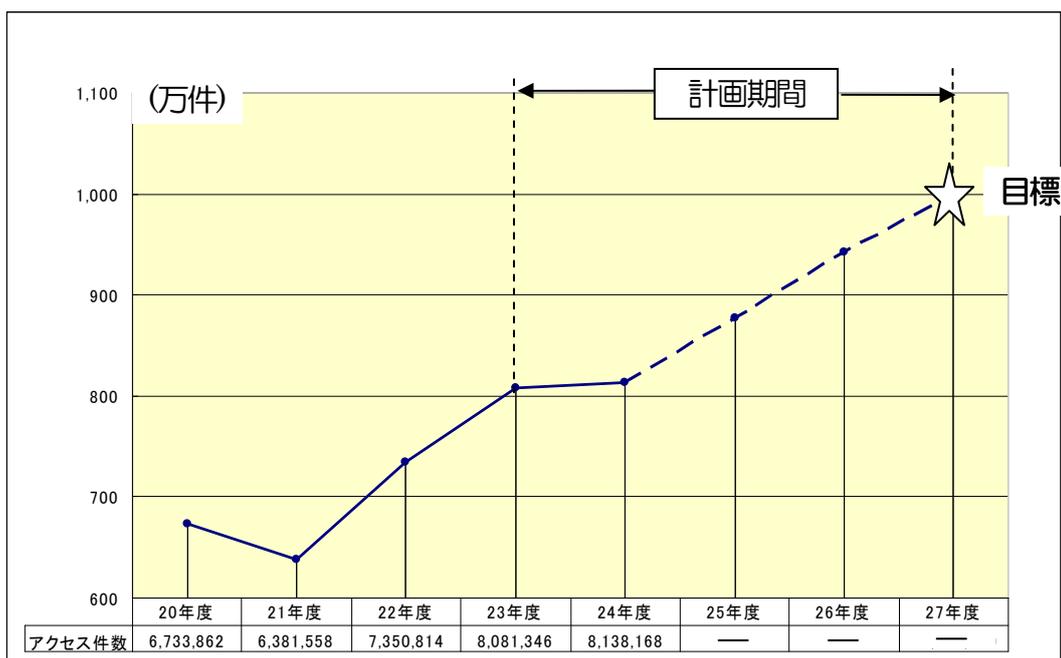
重点施策2 暮らしに役立つ行政サービスへの進化

（評価指標）「ネットあいち」（トップページ）のアクセス件数

（目 標）1,000万件（平成27年度の件数）

（24年度末の状況）

- ・ 約814万件（24年度計、全国4位） 参考：23年度＝全国3位



20年度からの「ネットあいち」（トップページ）のアクセス件数推移と目標年度の件数

（施策の趣旨及び課題）

本施策は、高度なICT環境を生かして県民生活の不安を解消していくために展開しています。

県が発信する情報の総合的な窓口である「ネットあいち」を、より親しみやすいものとしていくとともに、県民が必要とするコンテンツを更に充実する必要があります。

「ネットあいち」（トップページ）の24年度の年間アクセス件数が前年度の微増に留まっており、目標を達成するためには一層魅力のあるWebサイト作りが必要です。

また、広報活動の手段として動画サイト、デジタルサイネージ及びインターネットラジオなど新たなICT技術を活用し、利用する視聴対象の層に合わせてより効果的にPRしていくことが重要です。

(主な計画)

2-1 楽しさを視点に置いた「ネットあいち」のリニューアル

- ・ LOVE あいちサポーターズからの応援メッセージを追加（23～25年度）
- ・ PLAY!AICHI 特派員による魅力発信及び特派員の拡充（適宜）
- ・ 「ワクワクあいち」のコンテンツの拡充（24年度～）
- ・ クロスメディア・メディアミックスなど発信する内容に応じた効果的な広報媒体・形式の活用を検討（24年度～）
- ・ 新しいソーシャルメディアによる情報発信の検討（25年度～）

2-2 ネットコンテンツの充実

- ・ 「ネットあいち」に県民の方の関心の高い情報の追加（25年度～）
- ・ 愛知県図書館電算システムの更新(25年度)、連携するための市町村図書館への説明会実施（25年度～）
- ・ あいちの空港を紹介する動画及びQRコード等を利用し、空港の利便性の高さをより広く発信（25年度～）

2-3 安全情報伝達体制の強化

- ・ ツイッターを用いた防災情報など周知の促進（随時）
- ・ AEDマップへの登録の働きかけ（随時）、同マップの表示・入力項目の改修（25年度）
- ・ 地震や洪水情報など防災メールサービスの普及拡大（25年度～）

2-4 ICT を生かした教育の充実

- ・ 校務支援システムの運用（25年度～）
- ・ 「あいちの学校連携ネット」の運用・PR（25年度～）
- ・ 県立高校での電子黒板・プロジェクトの活用（24年度～）

2-5 地域に応じた医療福祉体制の構築

- ・ へき地医療支援システムに係る経費の補助（継続）
- ・ がんセンター中央病院における電子カルテの運用及び他の県立病院での導入検討（25年度）

重点施策3 デジタルコンテンツで加速する地域ブランディングへの進化

(評価指標) 「感☆動! あいち」の動画へのアクセス件数

(目 標) 50万件 (平成27年度までの累計)

(24年度末の状況)

- ・ 約22万件 (「感☆動! あいち」開設後の24年度末までの累計)
- ・ アクセス件数の多い動画 (「デート de 知多あるき」、「あいちの離島PR大作戦」、「愛知の“こだわり特産品”CM及びお笑い特産品動画」)

愛知の“こだわり特産品”CM

愛知県、よしもとクリエイティブ・エージェンシー及び大同大学が連携して作成した「愛知のこだわり特産品CM」です。



○愛知県×よしもとクリエイティブ・エージェンシー×大同大学による特

若手芸人による お笑い特産品動画

よしもとの若手芸人による「愛知の“こだわり特産品”CMプロジェクト」に応募のあった特産品をネタにしたお笑い特産品動画です。



(施策の趣旨及び課題)

本施策は、高度な ICT 環境を生かしながら地域資源の情報発信力を強化し、国内外で存在感ある地域ブランドを構築していくために展開しています。

近年、行政の分野においてコンテンツ作成により雇用対策や地域振興を図る様々な試みが行われていますが、今後、継続して地域の情報を魅力ある形で発信していくために、情報発信してもらえらる協力者と連携するなど検討していく必要があります。

また、地域イベントと連動して ICT の特性を生かしたコンテンツを作成し、より効果的な情報発信を行っていく必要があります。

(主な計画)

3-1 「PLAY! AICHI プロジェクト」の推進

- ・ PLAY! AICHI 特派員と協力し、新しい ICT 技術等も活用しながら、愛知県の魅力を発信していく (24 年度～)

3-2 ソーシャルメディアの活用

- ・ ブログサイト「三河の山里だより」を県交流居住センター Web ページで発信 (24 年度～)
- ・ 「あいちの山里で暮らそう 80日間チャレンジ」(24 年度) の継承事業として、三河山間市町村が委嘱する「地域おこし協力隊員」を「あいちの山里で暮らそうチャレンジ隊」に認定し、フェイスブックを活用した情報発信を実施 (25 年度～)
- ・ ソーシャルメディアの活用指針の運用 (25 年度～)

3-3 訴求力の高い観光コンテンツの充実

- ・ 新技術を活用したコンテンツの運用を踏まえたノウハウの情報提供 (24 年度～)
- ・ 県内で開催されるイベントに AR 技術などを活用 (25 年度)

3-4 親しみやすい文化芸術コンテンツの充実

- ・ 愛知県陶磁資料館 (25 年 6 月から愛知県陶磁美術館に名称変更)、所蔵品・展示会情報等の検索システムの開発及び稼働 (25 年度)
- ・ 愛知県図書館電算システムの更新 (25 年度)、愛知県図書館 Web サイトリニューアル (25 年度)
- ・ 文化財ナビ新規指定・登録データの追加 (随時)

3-5 魅力が際立つ特産品コンテンツの充実

- ・ 「消費者と生産者の思いを伝える農林水産業」の取組を推進するとともに、モデル事例をインターネットで発信 (25 年度～)
- ・ 食や農林水産業に関する Web コンテンツの効果的な情報発信 (24 年度～)

3-6 企業等との連携による情報発信力の強化

- ・ 中日本高速道路株式会社との包括協定に基づき三河山間地域の情報を発信 (24 年度～)

重点施策4 モノづくりの高付加価値化を支える情報通信産業への進化

(評価指標) あいちベンチャーハウス入居企業の成長率(売上高前年度比増加率 10%以上)

(目標) 目標達成企業が50%(毎年度の割合)

(24年度末の状況)

(対象企業中で売上高前年度比増加率 10%以上の企業)	12社
(あいちベンチャーハウスで2期以上決算を組めた対象企業)	21社中

= $\frac{12}{21} = 57.1\%$

(施策の趣旨及び課題)

本施策は、情報通信関連製造業が次世代自動車など本県の強みであるモノづくりの高付加価値化を支えていくために展開しています。

情報通信技術に関連する研究開発などを行う優れた人材・企業の育成や誘致などを促進し、モノづくりを持続的に発展させていくことが必要です。

(主な計画)

4-1 研究開発の促進

- ・ 「知の拠点あいち」重点研究プロジェクトの実施(試作品開発、商品化、特許出願等)(継続)
- ・ 情報通信技術を活用した農業振興など東三河地域で企業サポート事業の実施(25年度～)
- ・ 施設園芸収量予測ソフト実用性の検討(24年度～)
- ・ 「あいち地球温暖化防止戦略 2020」に基づき、再生可能エネルギーと省エネ化によるゼロカーボンライフへの取組を推進(25年度～)

4-2 スマートモビリティ社会の創造

- ・ 実証実験受入環境整備、実証実験成果の普及(継続)
- ・ あいちITSワールド等によるITSの普及啓発活動の実施(継続)
- ・ 交通事故情報の発生状況を基に、経路上の事故多発地点の情報提供をするための光ビーコンの更新及び整備を実施(24年度～)
- ・ ITS世界会議 東京 2013 へのブース出展及びポストコングレスツアーの実施(25年度)

4-3 情報通信産業等の誘致・育成

- ・ 21世紀高度先端産業立地補助金、新あいち創造産業立地補助金及び産業立地促進税制の運用(24年度～)
- ・ 新学習指導要領における情報通信関連技術の習得に係る年間指導計画の実施(25年度～)
- ・ 有望ビジネスマッチング交流会の販路開拓支援(24年度～)

4-4 デジタルコンテンツ産業の育成

- ・ AR「あいちの野鳥観察広場」、AR「万博アルバム」(24年度～)
- ・ 「AR未来科学技術体感ルート」のARコンテンツを、リモモ利用促進イベント(リモモウォーキング等)との連携により紹介し、利用を促進(24年度)

- ・ 愛知デジタルコンテンツコンテストの実施及び優秀作品の県庁動画サイトへの掲載（継続）

重点施策5 信頼のおける情報通信社会への進化

（評価指標）情報セキュリティに関する研修の受講人数
 （目 標）前年度実績値を超える人数（毎年度の人数）
 （24年度末の状況）

- ・ 本庁全課室及び全地方機関に置いた情報化リーダーに対して研修を実施
384名（24年度実績） 参考：23年度＝392名
- ・ 他に新規採用（328名）、主査級（356名）、その他職員研修でも研修を実施

（施策の趣旨及び課題）

本施策は、多様な主体と連携しながら、情報通信社会の安全性を高めるとともに、インターネット等の未利用者の不利益を軽減するために展開しています。

近年、急速に情報化が進んでおり、サイバー犯罪の手口もまた高度化・多様化しています。インターネット利用者やスマートフォンなどの通信機器を狙った攻撃も増えていることから利用上の注意喚起をしていく必要があります。

インターネットを幅広い人々が利用する情報社会においては、誰しもが同じ様に情報を取得・発信できることが重要であるため、アクセシビリティの確保やデジタルデバイドの解消が求められます。

（主な計画）

5-1 情報社会の安全性・信頼性の確保

- ・ 愛知県インターネット・サービスプロバイダ防犯連絡協議会総会等の開催（継続）
- ・ 教育委員会と警察本部が連携したサイバー犯罪防止対策の実施（23年度～）
- ・ 県内の重要インフラ企業に対し、広報啓発活動を実施（23年度～）
- ・ 大学生サイバーボランティアによるサイバーパトロールやサイバー犯罪防止講話の実施（24年度～）
- ・ デジタルコンテンツに係る不当請求等に対して「あいち暮らしっく」、消費生活情報サイトによる啓発及び消費生活相談を実施（23年度～）
- ・ 「インターネット利用安全・安心講座」「安心ネットインストラクター養成講座」の開催（継続）
- ・ 愛知県教育委員会道德教育総合推進サイト「モラルBOX」での情報モラル教育実施及び関連情報の掲載（24年度～）

5-2 情報セキュリティの徹底

- ・ セキュリティ監査及び指摘事項の改善（継続）
- ・ 安心ネットインストラクターによる情報モラルの啓発活動（継続）
- ・ 職務の級ごとの職員向けの情報セキュリティに関する研修及び職場ごとの情報化リーダーに対する情報セキュリティ研修の実施（継続）

5-3 アクセシビリティの確保

- ・ 県の公式Webサイトについては、基本的にWeb作成支援システム（CMS）により作

成する（継続）

- ・ 三河山間地域において、情報通信基盤を活用し集落等に対する情報発信などのあり方を市町村とともに検討（継続）
- ・ ネットあいちの日本語Webページの自動翻訳機能（英語）の追加検討（25年度）

5-4 地理的情報格差の解消

- ・ 三河山間地域における移動通信の整備は、地元自治体の要望に併せて対応（継続）
- ・ 離島における通信環境について、通信事業者及び地元自治体に聞き取り調査を実施（継続）

4 まとめ

第2章は24年度に実施した主な取組について報告し、第3章は課題の確認や今後の取組の計画について記載しました。本章では24年度末時点でのあいちICTアクションプラン2015全体の総括を行います。

また、最近のICT環境を取り巻く大きな変化として、アクションプランにも記載されている「社会保障・税に関わる番号制度」について国会で法律が成立したことから本章で触れていきます。

(1) 総括

アクションプランの策定以降、取組の成果として、動画を始めとするネットコンテンツの拡充やソーシャルメディアが情報発信ツールとして活用され始めてきていることが挙げられ、近年の新しい動きと言えます。

アクションプランでは、5つの重点施策の下、144項目の施策展開の方向性を設定しています。総括する上で、それぞれの項目ごとに進行状況の評価とコメントを下の表にまとめました。

※評価は、「順」＝順調に進行している、「遅」＝予定より遅延又は取組が不十分である、「未」＝未着手の項目数を表します。

重点施策	評価		コメント
1 クラウドをベースとした業務システムへの進化	順	22	クラウド化や業務システムの開発・改修等は計画通りであり、施策全体として順調に進んでいる。
	遅	0	-
	未	3	①共通サーバシステム第二段階、②業務システムのパブリッククラウド化、③共通番号制度への対応 →25年度以降に実施する項目であり、今後、計画的に実施する。
2 暮らしに役立つ行政サービスへの進化	順	38	本県の地域情報を発信するWebサイトやコンテンツの充実を図った。また、安全情報・教育・地域医療にそれぞれICTを活用した取組が開始された。
	遅	1	県公式Webサイト「ネットあいち」リニューアルによる利用者の増 →現在、スマートフォン表示に対応していないため、25年度にトップページの対応を行う。また、下層の各Webページについてはスマートフォン対応のコンテンツ作成システムの導入の検討を行う。
	未	1	観光地などの写真を、通信機能付きフォトフレーム用に配信するなど 「面白さ」や「楽しさ」に視点を置いたコンテンツづくり →今後、宣伝効果などの検討を行い、コンテンツを充実させていく。
3 デジタルコンテンツで加速する地域ブランディングへの進化	順	35	各種ソーシャルメディアやARなど新しい技術を利用した情報発信を行っている。 今後も引き続きICT技術を生かして地域の魅力を高める取組を充実させていく。
	遅	0	-
	未	1	ソーシャルメディアを活用しながら、県や市町村などのキャラクターが連携して情報発信を行う仕組みの検討 →25年度に実施する予定である。

4 モノづくりの高付加価値を支える情報通信産業への進化	順	24	ITSなどの研究や企業に対する支援を行った。 今後も引き続き、情報通信産業の振興に力を入れていく。
	遅	0	-
	未	1	スマートモビリティの海外展開 →25年度以降に検討していく必要がある。
5 信頼のおける情報通信社会への進化	順	18	県民の方が安全に暮らせるような情報発信やネット犯罪などを防止する取組を行っている。25年7月の改正愛知県青少年保護条例で、青少年のフィルタリング利用の促進を図るなど、社会環境の変化に対応していく必要がある。
	遅	0	-
	未	0	-
合 計			順調 137項目、遅延 1項目、未着手6項目

(2) 25年度以降の展開

今後は、社会環境の変化やICTを巡る急速な技術進歩などに適切に対応していく必要があり、目標年度である2015年度（平成27年度）に向けてアクションプランの進行管理をしっかりと行いつつ、アクションプラン自体の見直しも必要に応じて検討していく予定です。

特に、「社会保障・税に関わる番号制度」については、個人番号や法人番号を割当て、「行政運営の効率化と行政分野におけるより公正な給付と負担の確保」をし、かつ、「国民が手続の簡素化による負担の軽減、本人確認の簡易な手段等の利便性の向上を得られるよう」にすることを目的に番号制度関連4法が平成25年5月24日に成立し本格導入されることになりました。

今後、平成27年10月から個人番号を付番し、平成28年1月から個人番号の利用開始、平成29年7月から地方公共団体との情報連携を行うこととされており、地方公共団体においても制度導入に向けた取組を遅滞なく進めていく必要があります。

具体的には、関連する業務の把握・見直しや既存業務システムの改修、新たな情報システムの構築が必要であり、本県としては、庁内関係部局と緊密に連携して計画的にこうした取組を進めるとともに、県内市町村に対し必要な情報提供や支援をしていきます。

(参考) 取組を紹介したWebサイトの一覧

ワクワクあいち

<http://www.pref.aichi.jp/joho/wakuwaku/>

愛知県の産業観光、芸術・文化、特産品など紹介しています。

奥三河の花祭

<http://hanamatsuri.jp/>

愛知県北設楽郡で開催される「花祭」を紹介しています。

ルーガ・リーモ通信

<http://rugarimo.com/>

「あいちの山里で暮らそう 80日間チャレンジ」チャレンジスタッフの活動を紹介しています。

ほの国東三河 AR王国

http://www.higashimikawa.jp/ar_special/

東三河で楽しめるARを使った観光や施設案内のためのスマートフォン用アプリを紹介しています。

アマゾンジャパン 愛知県フェア

<http://www.amazon.co.jp/b?ie=UTF8&node=2261313051>

愛知の特産品などを紹介・販売しています。

ロココロあいち

<http://lococoro-hotfurusato.com/>

フェイスブックやユーチューブなどと連動させ、NPOなどの活動情報を見ることができます。

消費生活情報あいち暮らしWEB

<http://www.pref.aichi.jp/kenmin/shohiseikatsu/>

消費生活情報全般から、悪質商法をはじめとする県民生活プラザに寄せられる相談事例や消費生活モニター調査結果などを掲載しています。

愛知県陶磁美術館の所蔵品の紹介

http://www.pref.aichi.jp/touji/004_collection/index.html

愛知県陶磁美術館の所蔵品の紹介をしています。

愛知県警 ～サイバー犯罪防止講話のご紹介～

<http://www.pref.aichi.jp/police/safety/high-tech/kouwa.html>

県警によるサイバー犯罪防止講話の案内と予約方法について掲載されています。

あいちICTアクションプラン2015 年次レポート(2012年度版)

<http://www.pref.aichi.jp/0000054211.html>

24年度に策定した年次レポートです。